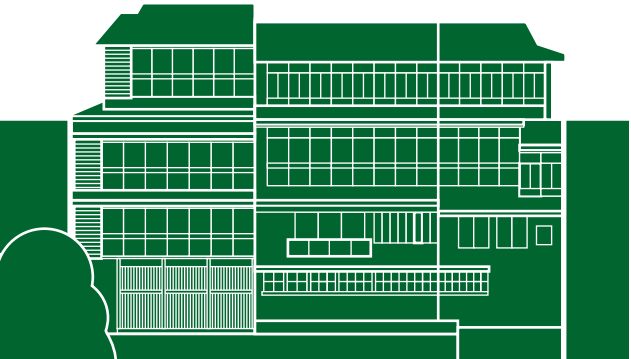


カナザワ ケン・チク サンポ vol.4

ハマグリザカ・テラマチ・キュウツルギミチ

キュウノダミチ・キヨカワマチ・サイガワ

金沢建築散歩 蛤坂・寺町・旧鶴来道・旧野田道・清川町・犀川

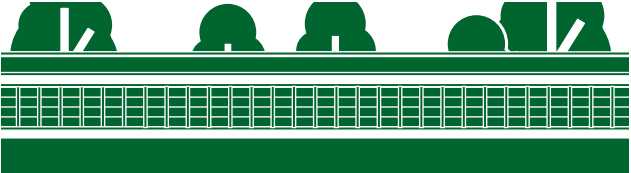


SANKINROU



W-ZAKA

HONCHOJI



TERAMACHI



MYOKEIJI

TSUBAJIN

JOGAKUJI



MYORYUJI-NINJADERA



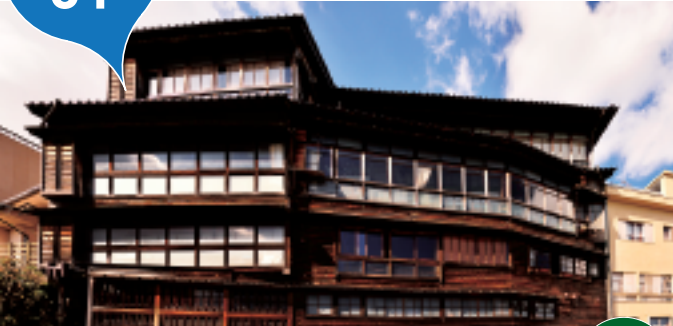
A 山錦楼
Sankinrou

圧倒的な存在感

山錦楼は、野町で仕出業を営んでいた初代に吉氏が、大正11年(1922年)に現在地へ移転してきたのが始まりです。正面から見ると3階建て、裏から見ると地階を含め4層にも重なり、坂のカーブに合わせて折れ曲がる姿は、犀川周辺では圧倒的な存在感です。

サンキンロウ

PICK UP
KENCHIKU
01 山錦楼
SANKINROU
迫力満点木造3階建て



B 4層の構成
Four tiered

挑戦のゆえに

1階は主に客の待合と帳場、調理場、地階には客用便所と使用人部屋。2階には犀川を見渡せる39.5帖の大広間、3階は21帖の大広間と宿泊の際に使用されていた部屋が3つ並びます。金沢で

は大正末〜昭和初期にかけて営業スペースの拡大を目的に、本建築をしのぐ2階建ての料亭、旅館が多く新築されました。それに刺激され、3階建てに挑戦したわけです。



C 増築
Extension

継ぎ足して、継ぎ足して

大正11年の移築後、大正14年(1925年)に現在の左側にあたる3軒分を客席敷向けに改築し、昭和1年(1926年)に3階部分を建て増し、壁は群青色の壁は一般にも広がり始めます。本建築も影響を受け、2階の大広間は格天井であるものの、外観は建て増しされた部分も違和感なく連続しており、町家建築からの発展形を基調とした意匠でまとまっています。しかし内部では構造的にアクロパティックな部分も、



D 色彩
Color

おもてなしの場の鮮やかさ

兼六園に隣接する成興閣が公開された際、天井に使用されているあまりも鮮やかな群青色は、人々に大きなインパクトを与えました。明治に入ると群青色の壁は一般にも広がり始めます。本建築も影響を受け、2階の大広間は格天井で色壁はグリーンに、3階の大広間は半緑天井で壁色はコバルトブルーとなっています。高価な群青色の顔料を使用した部屋は、最高のおもてなしの場でした。

ミョウリュウジ

PICK UP
KENCHIKU
02 妙立寺(忍者寺)
MYORYUJI (NINJADERA)
複雑な構成を持つ別名忍者寺



A 妙立寺の歴史
History

祈願所から始まった

前田利家公が金沢城内に設立した祈願所を、三代目前田利常公が金沢城近くに移築建立したのが1643年、幕府の加賀征伐に備えて出城の役割をもたせた寺院群を寺町台につくり、妙立寺はそれらの監視所として1659年に現在地に移

築されました。その後も歴代の藩主は己の命運と、庶民の安寧を祈願し妙立寺を崇めました。藩主が庶民に気づかれずに、お忍びで詣るための隠し拝殿が、本堂内に中二階のような形で設けられています。



B 複雑な構成
Complicated construction

「段」による複雑な構成

29の階段は、室内の動線を複雑化させています。床板を外すと落とし穴となる階段、引き戸を錠のように利用した床下階段、押し入れ内の壁裏隠し階段等、目を見張るものばかりです。隠し部分に障子がはられている階段は、外部から忍び寄る外敵の足の影を見て、内部から槍で刺し倒すためのものでした。



C 加賀望楼
Kaga bouro

見張り台の役割

本堂の屋根のアクセントである屋根先端部のガラス張りの望楼。見張り台の役割を持ち、金沢城へ光による通信も可能だったそう。望楼へは、庫裏の三階にある茶室「霞の間」から長い階段通路を経てゆきます。本堂と庫裏が一体となった、前衛的な数寄屋建築として評価されています。



D 四階七層二十三部屋二十九階段
4 floors 7 tiers 23 rooms 29 stairs

複雑な建築構造

「正久山 妙立寺」人呼んで「忍者寺」。その由来はその複雑な建築構造にあります。創建当時、幕府によって三階建て以上の建築は禁止されていた。しかし本建築は2階建ての外観でありながら、内部は四階建てで七層にも分かれ、23の

ココダケノハナシ



B 客室
Rooms

歴史と記憶が散らばる客室

成興閣から譲り受けた窓枠、前田家のお姫様から頂いた帯を貼った地袋、若き歌人や画家が出世払いの御礼として描いた書や絵、伊藤博文が泊まった際に残した「風光第一楼」の書。客室内は歴史や思い出の重なりにより彩られています。

ココダケノハナシ



C 大広間
Great hall

昔とかわらない姿

戦時中、軍事工場の作業場としても使われた200畳もの大広間。長手方向に35メートルもの長さを持ちます。広縁の天井は綱代張りの矢羽根欄干天井となっており、これを作る職人、材料不足から、大変貴重なものとなっています。

ツバジン

つば甚
TSUBAJIN

1752年創業、金沢の迎賓館としての役割も担った老舗料亭



PICK UP
KENCHIKU
03

A つば甚の成り立ち
History

鐔師から料理屋へ

つば甚は1752年の創業から250年以上にわたり、金沢の迎賓館としての役割も担ってきた老舗料亭です。代々加賀藩のお抱え鐔師であった鐔屋三代目兵衛氏が趣向に満ちた料理で友人知人へ

もてなしていたところ、それが評判となり藩主の耳にも届きます。その後、職業を変えようとした、日本料理屋となりました。鶴の間の床の間には、家伝の鐔がはめ込まれています。



D 玄関
Entrance

時代の影響を受けて

戦後GHQの泊まり宿となったつば甚、玄関を全て壊し、畳を取り除き、土足のダンスホールとした過去もありました。その名残として、地下へと続く階段はカーペット敷きとなっています。外部のようす、また路面電車を通す関係で玄関の前庭は狭まりましたが、立派な木は昔のまま。

E 土縁
Doen

苔むす土間に、小さなヤブコウジ

奥の細道の途中、松尾芭蕉が九日圓滞在了た片町の「宮竹屋」を移築した部屋です。中庭から土間にかけ苔がむし、ヤブコウジが赤い実を付へと続く階段はカーペット敷きとなっています。外部のようす、また路面電車を通す関係で玄関の前庭は狭まりましたが、立派な木は昔のまま。

ミンワデンセツ

民話伝説

FOLK TALES

寺町には金沢市に伝わる有名な民話伝説の舞台となった場所がいくつもあります。

コワイ?

コワクナイ?

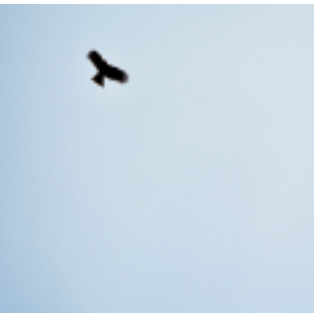


A いもほり藤五郎
Imohori Togoro

金沢地名の由来

加賀の山あいで芋を掘って暮らす藤五郎という男がいました。貧乏だが心根の優しい働き者の男でした。そんなある日藤五郎の家に、大和国から嫁入り行列がやってきます。驚く藤五郎に長者の男は「観音様のお告げで娘を嫁入りさせにきた」と言います。貧乏だからと断るものの、観音様のお告げには逆らえず、娘は金銀もって藤五郎に嫁入り。しかし藤五郎、それらに関心を示すどころか、晩飯用の雁を掘めようと、金銀入った小袋をぶん投げてしまいます。全財産は雁の脚に引か

かりどこか遠くへ。娘は泣くばかり。そんな娘の手を引いて、藤五郎は芋洗い場に連れてゆき、「なんでもなら沢山ここにある、だから泣かないでおくれ。」。娘が沢の中を覗くと砂に混じり光る砂金。娘は藤五郎に金の価値を教え、二人は長者になって仲良く暮らしました。金を洗った沢は金沢の由来となり、信々深い藤五郎は砂金を集めて寺町に伏見寺を建立。境内には二人のお墓に藤五郎の石像もあり、ぜひ幸せな藤五郎に会いに行ってください。



B 天狗さんの寺
Temple of Tengu

永久に火事から守る

ある日妙慶寺の住職が近江町市場を歩いていると、子ども達が魚を盗んだ一羽のトンビを殺そうとしていました。住職はそれを止め、妙慶寺へトンビを連れて帰り境内で空に放つていくと、女はお寺の墓地に入ってゆき、埋葬されたばかりの墓場の前でふっと消えました。怖くなり翌日に住職に相談したところ、墓場から赤ん坊の泣き声が。そっと掘り起こすと胎を買いに来たはずの女性の亡骸にしっかりと抱かれた元気な男の赤ん坊が胎をしゃぶっていました。その後この赤ん坊がお寺で育てられ、立派なお坊さんとなります。幽霊胎買いの話は、子育て幽霊として日本各地に伝わっており、金沢市だけでも立像寺を含め5箇所に伝わっています。



C 幽霊胎買い立像寺
Yurei-ame

金沢市だけでも五カ所に伝わる

毎晩胎を買いにくる若い女が、ある夜に「胎を買いにくるのも今夜が最後です」と悲しそうな顔で言い残し、店を出て行きました。不思議に思った店主が、そと後をつけていくと、女はお寺の墓地に入ってゆき、埋葬されたばかりの墓場の前でふっと消えました。怖くなり翌日に住職に相談したところ、墓場から赤ん坊の泣き声が。そっと掘り起こすと胎を買いに来たはずの女性の亡骸にしっかりと抱かれた元気な男の赤ん坊が胎をしゃぶっていました。その後この赤ん坊がお寺で育てられ、立派なお坊さんとなります。幽霊胎買いの話は、子育て幽霊として日本各地に伝わっており、金沢市だけでも立像寺を含め5箇所に伝わっています。

これであなとも寺町通!

テラマチの レキンをマナブ

テラマチの
成り立ちを知る

名前の通り70もお寺が集まる金沢最大の寺町です。加賀藩の金沢町下町の形成過程において卯辰山山麓、小立野台、寺町台にそれぞれ寺院群が築かれました。寺院群形成の理由としては多くの武士を配置できる城下の防衛拠点としての軍事的機能、金沢城から見た鬼門除け、城下町拡大においての空間利用区分等の諸説あり。1615年-1643年頃の集中的な寺院配置により基礎がつけられ、寺院群全体としては長い期間の中でゆっくりとつくられていきました。



国選定重要伝統的建造物群保存地区

デン・ケン・チク

デン・ケン・チク(伝建地区)一重要伝統的建造物群保存地区とは?

城下町や宿場町、門前町などの歴史的なまちを守るため、地区を定め、地区毎に策定された保存計画に従って、まちなみの保存を図る制度。寺町台では旧野田道、旧鶴来道を主軸とし、通り沿いの寺社地、地子地、寺社門前地を基本とした22ヘクタールの範囲を伝建地区として定めています。金沢市では寺町台のほか、東山ひがし、主計町、卯辰山麓地区が選定されています。ひとつの市町村で4つの伝建地区を有するのは極めて異例なのです。



A 旧鶴来道
Former Tsurugi-michi

門前地の有無が生んだ二つの町並み

大きく二つの道で構成されている寺町。ひとつは蛤坂〜広見にかけての旧鶴来道、もう一つは現在幹線道路にもなっている旧野田道。この二つの道の景観には大きな違いが一つ、旧鶴来道では、江戸時代に門前地として寺の



B 旧野田道
Former Noda-michi

表通りに面する敷地を貸し出したため、町屋が建ち並び、その間から寺の入り口である山門が顔をのぞかせるような景観に、旧野田道は門前地をほとんど設けなかったため、土塀と山門が続く景観となったわけです。



C 屋根
Roof

屋根で見る、お寺さん(写真左から切妻平入、切妻妻入、寄棟)

お寺といえは入母屋造の平入りが一般的ですが、金沢では切妻造の平入りが大半を占めてあります。しかし寺町では切妻造の妻入りのものや、寄棟造のものも多く見られるのが特徴的なのです。マップ内も参照!

●切妻平入:成学寺 伏見寺 玉泉寺 玉龍寺 松月寺 三光寺 金剛寺 月照寺 淨安寺 宝勝寺 ●切妻妻入:本長寺 国泰寺 大門寺 高岸寺 承証寺 龍雲寺 香林寺 本因寺 ●寄棟:妙立寺 妙典寺 立像寺 妙慶寺 極楽寺 長久寺 ●入母屋:西方寺

あれ!?
ヤネがこんなにちがう!

